



介護現場をリアルに描いた漫画『オニオカメ!』では介護職員の主人公鬼岡明さんが大奮闘する。

イラスト：のっぼ

## 42 [COVER STORY]

# 誤解だらけの 介護職

44 | 図解 | 「介護職は3K」では将来の担い手が足りなくなる!!

## 46 ① きつい? 給料が低い? 高離職率? 3Kの真実

- 46 介護職の賃金は低いのか。広がる格差の原因は?
- 47 汚い? 結婚できない? いろいろな「K」の真実
- 49 離職率はすでに大幅改善。現場から広がる可能性
- 52 現場からキャリアアップ。介護の仕事はどう極める
- 53 仕事レベルを測る「キャリア段位制度」
- 58 アンケート▶ 介護職員635人の生の声

55 介護現場カイゼン | 辞めない! 集まる! 人手不足の克服法  
70 利用者とのために。ムダをなくして効率化

## 60 ② 業界に革新の波

- 60 目指せ! 甲子園優勝。変わる現場の士気
- 62 若者たちの間で広がる介護職ネットワーク
- 65 介護保険に縛られない! 利用者目線の**新ビジネス**
- 68 参入相次ぐ**介護ロボット**。普及に向けたハードル

## 72 ③ 介護保険の行く先

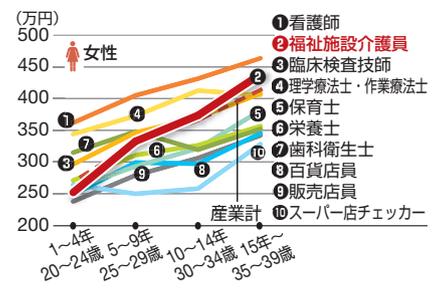
- 72 | 徹底図解 | 2015年度介護保険制度改正のポイント
- 74 アンケート▶ ケアマネの7割が「将来に不安を感じる」
- 76 | ルポ | ケアマネの悲痛な叫び。仕事は増大するばかり
- 78 急増で経営リスク高まる。**小規模デイ**の選択肢
- 80 **サ高住**急増の陰に潜む介護保険頼りの収益構造



■ 将来の担い手が足りなくなる!! (→P44)



■ 勤続年数を入れた賃金カーブ — 他職種との比較 — (→P48)



- 9 | 経済を見る眼 | 経営の「進歩」と「進化」／三品和広
- 30 | この人に聞く | アンディ・ジャシー(アマゾン上級副社長)
- 33 | 少数異見 | オバマ訪日が残したもの

カンパニー&ビジネス

82 神戸製鋼所 | 高炉休止で視界開けるか

- 84 | 知の技法 出世の作法 | 読売新聞「人生案内」に関心が集まる理由／佐藤 優
- 86 | 新ビジネス発想塾 | 「N:1:N」化で勝ち組は「1」をとる(最終回)／妹尾堅一郎
- 88 | 中国 動態 | 中国を出る富裕層と企業／田中信彦
- 90 | アジア 特報 | 取引高ゼロの失敗市場／「中央日報エコノミスト」(韓国)

82



カンパニー&ビジネス  
神戸製鋼所

9



経済を見る眼  
三品和広

30



この人に聞く  
アマゾン上級副社長  
アンディ・ジャシー

86



新ビジネス発想塾  
妹尾堅一郎

- 92 | グローバル・アイ | 新たな「不都合な真実」／ビョルン・ロンボルグ ほか
- 94 | FOCUS 政治 | 戦後安保の転換点に試される政党・政治家の質／星 浩
- 96 | 成毛眞の技術探検 | ジバ総合美術工房の模型
- 98 | 日本人の価値観 | 日本の高校生は好成績かつ幸福／鈴木賢志
- 100 | 生涯現役の人生学 | 「誰がやったんだ!」はやめよう／童門冬二
- 102 | 株式観測 | 日銀政策決定会合後にヘッジファンドの売り／藤戸則弘
- 103 | 為替観測 | ドル円は102円中心の膠着／深谷幸司
- 104 | 価格を読む | コーヒー豆 | 天候不順で価格上昇
- 105 | マクロウォッチ | 個人消費の実力は大幅に鈍化
- 106 | ブックス&トレンド | 『無罪請負人』を書いた弘中惇一郎氏に聞くほか
- 112 | 日本婚活思想史序説 | 「運命の人」論の落とし穴／榛原赤人
- 117 | Readers & Editors | 読者の手紙、編集部から
- 118 | すごい現場、すごい場所 | 旭化成ホームズの温熱技術開発棟

5月3-10日号 訂正情報

16ページで日本産業パートナーズの社長が「馬上英美」とあるのは、正しくは「馬上英実」、73ページで春秋グループ日本代表が「王正華」とあるのは、正しくは「王煒」です。訂正お詫びします。

図表作成：小堀賢吾／杉本祐子  
本誌の記事は「東洋経済オンライン」「日経テレコン」「ジーサーチ」「ELNET」のデータベースに収録されており、フリーキーワードで検索、出力できます。

核心レポート

16 「エリート研究所」の危機  
迷走する理研

STAP細胞問題で揺れる「科学者の楽園」は、  
いったい何につまずいたのだろうか。

- 21 吉川弘之(日本学術会議名誉会員)「生命科学の怠慢だ」
- 22 日本の科学政策の根深い問題

24 海外販売までも消費税  
スマホアプリの受難

25 快走続くTモバイル  
スプリントは独り負け

26 米GE vs. 独シーメンス  
仏アルストム売却の行方



小保方氏だけが悪いのか(4月9日、大阪で会見した小保方氏)

27 沈没事故に揺れる韓国  
与党は地方選で惨敗も

28 規制改革会議が狙う  
混合診療解禁の無理筋

連載 第1回

34 トヨタ復活の真贋

営業益2兆円超、未達の1000万台…。リーマンショックや  
品質問題を乗り越え、強いトヨタが帰ってきた

36 紆余曲折の6年

40 トヨタの内なる課題



豊田章男社長(右)もレース参加車を背にこの表情

※今号は「ニュース最前線」を休載します

PR

5 ビジネスアспект パシフィックネット/「出口」でIT資産を守る存在。  
10 BRIDGE プリティッシュ・カウンシル

新世代リーダーのためのビジネスサイト

東洋経済  
TOYOKEIZAI  
ONLINE

http://toyokeizai.net

ライター/アフロ

連載 第1回

トヨタと豊田社長  
最高益への2200日

営業利益2.3兆円、  
未到の1000万台。  
トヨタがより  
強くなって帰ってきた。  
本誌：山田雄大

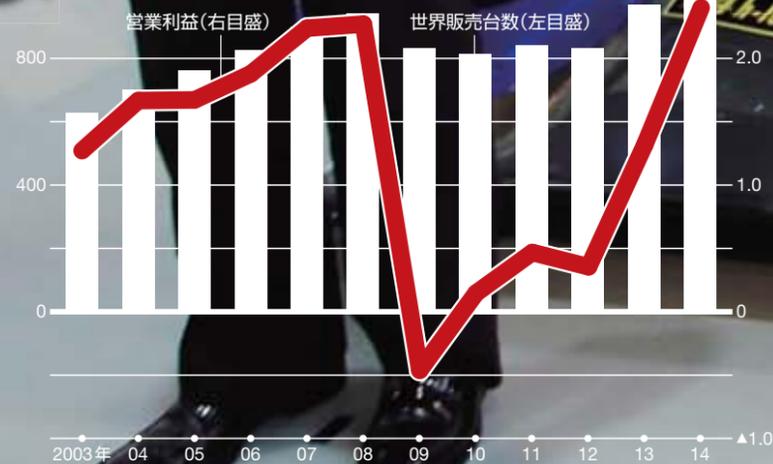
# トヨタ復活の真贋

1000万台

リーマンショック前の水準を突破

トヨタの世界販売台数と営業利益

2.3兆円



(注) 各年3月期

# 誤解だらけの 介護職

もう  
3Kとは  
言わせない

きつい、汚い、給料が低い、離職率が高い……。介護職にはこうしたイメージが付きまとう。だが、その多くは“誤解”だ。実際の現場では職場改善に向けた取り組みが進んでおり、さまざまなイノベーションも起こりつつある。

本誌：中川雅博、高橋志津子、堀越千代  
ライター／長谷川 敦、いしだかおる、大正谷成晴、  
新木洋光、竹内三保子(カデナクリエイト)  
デザイン：内田利枝 進行管理：宮澤由美



# 介護職の若者たちに 広がる情報共有の場



**こ** 数年、20〜30代の若い介護職員を対象に、横のつながりやネットワークを構築したり、介護業界への就職を後押ししたりする新たな動きが多く始まっている。

社団法人の日本介護ネットワーク協会も、そうしたムーブメントを起している組織の一つ。「日本介護ベンチャー協会は経営者、日本介護協会は組織、そして私たちは職員個人に焦点を合わせて、モチベーションや技術力の向上を目指している」と関口貴巳代表理事。

具体的には、介護職員のコミュニケーション能力、マネジメント能力、ポジティブシンキングとロジカルシンキングの強化を図る月2回の「介護職員活性化セミナー」、業界活性化のための取り組みや講演会、ワークショップを行う「全国介護ネットワークフォーラム」などを開催している。

「介護業界は、異業種と比べて勉強会や研修会の機会が多い。だが、

横のつながりが希薄で、職員同士の人間関係がうまくいかず離職に至るケースが多く見受けられる。施設の垣根を越えて悩みを相談し、情報共有できる場を持ち、仕事に前向きに取り組んでもらえたらというのが狙いだ」（岩崎英治理事）

ユニークなのは隔月で開催される「JCNAParty」。都内のバーを借り切り、自由に親交を深める語り場だ。3月下旬に開催されたPartyには、施設運営者や職員、就職を控えた学生、介護ビジネスの経営者など、約20名が集まった。

「さまざまな職種の人が集まり、新鮮な考えを吸収できるので、こういった場はとても大切。4月から埼玉県内に開所する施設に就職するが、こういった催しに参加しつつ、モチベーションを高めていきたい」と話すのは島根裕也さん。公務員、会社員を経て専門学校に入り、この春から介護職員となる25歳の若者だ。「月収20万円以下からのスター

## JCNA パーティー

日本介護ネットワーク協会が主催。都内のバーで隔月開催している

トとなるが、外食産業などと大差はないのでは。キャリアを積んでいけば昇給するし不安はない。むしろ介護業界を盛り上げていきたい」と、抱負を語る。

「イベントを通じて、ポジティブな人がたくさんいると知ってもらえるだけでも大きな収穫。自分自身の仕事にプラスになるきっかけとして使ってほしい」（関口代表理事）

## 月1回のペースで 学んで対話をする

現場の介護職員から経営者、医師や看護師といった医療職員、介護保



撮影：今井

## 未来をつくる kaigoカフェ

都内の喫茶店で開催。介護にかかわる人たちが集い、学ぶ場を提供



撮影：尾形文彦

## 仕事のヒントを得られ 前向きになれる

参加者が対話を繰り返した。

主催するのは、ケアマネジャーとして都内の施設に勤務する高瀬比呂子さん。「現場の対話を磨きたい」というのがそもそものきっかけだったという。

「私自身は介護保険が始まった00年から介護業界にかかわってきた。そこで痛感したのが、対話を通じて介護関係者同士の前向きなつながりの必要性。同じような志を持つ人や介護業界を変えようとしている人の存在をSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）で知り、仲

問を募り始めた」

講義形式の勉強会というより、コーヒーとお菓子を飲みながら、「もしも介護保険がなかったら」など介護にまつわる身近なテーマを扱い、肩書や役職を抜きにして語り合う会合。だからこそ、日常の業務に追われるあまり見過ごしてしまう介護の本質や、新たな価値観に気づかされる参加者が多いという。

「高瀬さんとはフェイスブックで知り合い、小規模多機能について話してもらいたいということで参加した。今は施設で働く個人がつながり

やすく、イベントで交流できる機会が増えていく。しかも介護だけではなく看護、医療などさまざまな立場の人が集まり人脈ができれば、多職種連携も実現しやすくなるのでは。前向きになれるばかりでなく、地域を支えるためのヒントにもつながるはず」と、神奈川県藤沢市で小規模多機能事業所などを展開する、あおいけあのか加藤忠相社長。

この日栃木県から参加したケアマネの鈴木隆浩さんは、高瀬さんの取り組みに感化され、「Torchig i未来カフェ」を1月から開催。「去年1月にこのカフェに参加し、『私もやってみたい』と思った。いずれは、地域に根差した介護の相談窓口を作りたい」。対話を通じて情報交換や人脈形成が、介護の未来を明るくしようとしている。

## ワークショップを通じて 介護の本質を学ぶ

未来をつくるkaigoカフェと同じく、現場の介護職員や経営者、介護業界の関係者が集い、学びや思い、考えを共有し、悩みを解消するイベントを4年前から実施しているのが「介護ラボしゅう」。

中浜崇之代表は今年で介護職10年。東京都世田谷区の介護施設に勤務していたが3月末で退職した。6月からは医師とタッグを組み、同じ

世田谷区内でデイサービスを開業する予定だ。

「20歳のときからこの業界に身を置いているが、私は専門学校も出ておらず、右も左もわからないまま……。そこで、介護について学んだら、勤務先に関係なく話し合える場所があればいいという思いから、介護ラボしゅうを立ち上げた」

4月中旬に、上北沢区民センター（東京都世田谷区）で19時30分から行われた第47回定例会には、約30名が参加。この日はハヤカワプランニングの早川浩士代表を講師に迎え、「日常生活支援を向上させるための見える化」についてワークショップを開催。参加者は四つのテーブルに分かれ、まず一人ひとりが「お茶の淹れ方」の手順を書き、さらにチームでまとめた。いったい

「気持ちよくお茶を飲んでいただくプロセスを振り返ることで、おもてなしの気持ちや仕事の段取りの大切さを学ぶのが目的（早川代表）」

木村沙緒里さんは、昨年1月に大手書店から千葉県の通所介護事業所に転職した29歳。「現場だと限られた情報しか得られず、こういった学びの場は新鮮。得られることは大きい。今日のことも職場で実践し、みんなにも伝えたい」。

福島美咲さんは、3年前に新卒で都内の特別養護老人ホームに就職。